

5 「世田谷区産業ビジョン」の振り返り

(1) 「世田谷区産業ビジョン」の概要

区及び区内産業を取り巻く社会経済環境の変化を的確にとらえ、グローバルな視野を持ちつつ、新たな時代のトレンドやニーズに対応していくことを目的として、2018年度（平成30年度）から10ヵ年を見通した世田谷区産業ビジョンを策定し、その実現に向けた施策等に関する計画を策定しました。

商業、工業、農業の枠組みにとらわれず、福祉、環境、建設なども含め、地域を支える多様な産業を育成・支援していくとともに、世田谷区の魅力を発信する観光プロモーションの推進も含めて産業横断的な連携を促進していくことで、さらなる区内産業の振興と地域経済の活性化を推進していくことが重要であると認識し、「7つのありたい姿」を設定しました。

(図表48) 世田谷区産業ビジョン（2018年3月）の全体像

テーマ：「区民・産業がつくる 世田谷の新たな価値と豊かさ」			
3つの視点	7つのありたい姿	将来像	実現に向けて
区民生活 の視点から	①住み慣れたところで、充実した日々がおくれる活力あるまち	高齢者や子育て世代等、区内に住むすべての方が、住み慣れた地域で充実した活力ある日常生活を送ることができる社会	<ul style="list-style-type: none"> ★商店街の公共的役割のさらなる深化 ★商店街の魅力向上による地域産業の活性化と地域ネットワークの強化 ★若手リーダー等地域人材の育成と支援体制の構築
	②安全・安心、快適で環境と調和したまち	災害に強く、犯罪の少ない環境とみどりの保全による良好な住環境とを、区民がともに持続的に享受できる社会	<ul style="list-style-type: none"> ★産業の横断的な連携による防災、防犯、豊かな消費生活のための取組みの推進 ★都市農業の振興によるみどり豊かな区民生活の持続的発展
産業活性化 の視点から	③人の生活を豊かにし、地域を育む産業	新たなサービス産業と、AIやロボット、IoTなど最新の産業技術の活用により生産性を向上させた地域のものづくり産業が、区民生活の利便性を高めて地域の活力を生み出していく社会	<ul style="list-style-type: none"> ★区民生活を支える産業の充実と、地域と産業の共生の実現 ★社会環境の変化に対応した、新しい産業技術の活用とそれに対応する人材の育成
	④世田谷の特性を活かした多様な産業	地域密着型の産業が、産学金公連携の仕組みや区内の様々な人材を活用しながら、区内においてソーシャルビジネスや地域ビジネスを創出するとともに、高度な産業技術の活用などにより海外等でグローバルに活躍することも可能な社会	<ul style="list-style-type: none"> ★産学金公の連携による、既存産業の維持・向上と新たな技術の活用促進 ★多様性を活かした新たな産業の育成と地域課題解決に向けた事業の支援
	⑤働く人が活躍できる機会の創出	働く人それぞれのキャリア、ライフスタイルなどに合わせた働き方を選択することにより、各人の個性や能力を存分に発揮することができる社会	<ul style="list-style-type: none"> ★就業マッチングの実現や多様な働き方による新たな価値を創出する人材の育成 ★自己の個性や能力を活かす働き方を選択でき、働き続けられる環境づくり
まちづくり の視点から	⑥世田谷の魅力が様々な交流を促し、さらなる賑わいを生み出すまち	世田谷の魅力やブランド力が広く浸透し、世田谷区を拠点として国内外の様々な人や地域との交流を促進することで、多様な魅力と賑わいが次々と生み出されていく社会	<ul style="list-style-type: none"> ★人々の交流と体験を生み出すまちなか観光の推進 ★地域資源の活用と効果的な情報発信による、持続的な産業振興に向けた取組みの促進
	⑦環境にやさしく、潤いに満ちた生活や事業ができるまち	みどり豊かで良好な生活環境を有する住宅地域と活気に溢れた産業集積地域とが調和した環境において、誰もが潤いに満ちた生活を送り、区内で元気に働くことができる社会	<ul style="list-style-type: none"> ★農地の保全や再生可能エネルギーの活用などを通じた良好な都市環境の構築 ★職住近接の推進とまちの活性化による、仕事と生活の調和がとれたまちづくり

(2) 世田谷区産業ビジョン「7つのありたい姿」の振り返り

ありたい姿 1

住み慣れたところで、充実した日々がおくれる活力あるまち

- 商店街を起点に、お祭りや食べ歩き等のイベントで地域活力の向上に寄与しました。
- 休憩所や子育て支援施設、コワーキングスペース整備による地域コミュニティの場の提供をしました。
- NPOと協働して、移動販売や買物代行といった買物弱者支援事業を行い、地域課題解決に寄与しました。
- 新型コロナウイルス感染症により、イベントを開催できない等の影響があったものの、在宅勤務や休校等で地域に人がいる中で、地域住民の生活基盤として日常生活を支える役割を發揮しました。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により経済的損失を被った小売業、飲食業といった中小個店を応援するため、区の支援の下、世田谷区商店街振興組合連合会がデジタル地域通貨「せたがやPay」を開始しました。ポイント還元事業などで区民の消費意欲の喚起を促したことで、総額29億2,900万円もの経済波及効果を創出しました。引き続き、地域生活に根差したデジタル地域通貨として、経済・非経済を問わず多くのシーンで利活用されるよう発展していきます。
- 区内商店街数は微減しているものの、せたがやPayを利用したキャンペーン等を通して商店街の魅力向上を引き続き図っていきます。

ありたい姿 2

安全・安心、快適で環境と調和したまち

- 街路灯やAEDの設置・維持管理による安全安心なまちづくりに寄与しました。
- 建設事業者をはじめとする地元事業者により、都市や住宅のインフラが日々守られるとともに地域貢献活動として防災訓練への参加や、災害発生時の道路等普及事業への協力等を内容とする協定の締結などを通じて、自助・共助による地域の安心・安全の維持に大きな役割を果たしています。
- 消費生活相談員を中心とした相談体制とその内容の向上・充実を図って消費者のサポートを強化した。幅広い年代に応じた情報伝達ルートを通じた多面的、効果的啓発活動を推進しています。
- 高齢者等が安全・安心に暮らせる社会づくりを目指し、「みまもり安心商店街」事業や、福祉領域の既存の高齢者見守りネットワーク等との連携や情報交換を推進しました。新鮮な農産物を提供するという地産地消の推進として、「せたがやそだち」のブランド力向上に取り組むとともに、「ふれ

あい農園事業」の拡充など、区民が農業を体験できる機会の拡大などに取り組みました。また、農業の6次産業化の取り組みとして「せたがやそだちビジネスプランコンテスト」を実施しました。

- 区内農地を災害時の避難場所や復旧事業の拠点として活用するため、引き続き区内JAと連携を図っていきます。

ありたい姿 3

人の生活を豊かにし、地域を育む産業

- IoTやAIといった新たな産業技術が進化し、生活や社会での活用が進む中で、「世田谷ワークスタイル」や「せたがやビジネスモデル」などについて地域経済を担う様々なステークホルダーにより創出していくことが重要と認識します。区内の多様な企業・スタートアップ・フリーランス・プロボノ・大学・金融機関など異業種により構成される産業創造プラットフォーム「SETAGAYA PORT」を構築し、地域経済を活性化する事業の実施や社会起業家の育成などに取り組んできました。
- 準工業地域において、町のものづくり事業所の魅力に触れる機会を設け、自分たちの町を知り、街に誇りを持てる契機となりました。

ありたい姿 4

世田谷の特性を生かした多様な産業

- 「SETAGAYA PORT」では、ソーシャルビジネスに取り組む事業者と連携したイベント等を通して社会課題の解決に取り組むとともに、事業者同士の交流の場を構築してきました。これらの交流の機会の中で創業間もない事業者同士のつながりも生まれ、その広がりも拡大しつつあります。
- 東京2020大会に向けて需要の高まりが期待された宿泊業をはじめとするインバウンドビジネスについては、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、1年の延期と無観客開催により大きな影響を受けました。
- 世田谷ものづくり学校は、旧池尻中学校校舎を活用した新たなコミュニティの場として、2004年（平成16年）に開設し、学校跡地活用の好事例として、全国的にも注目される施設となりました。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響やDXやSDGsなど社会経済環境の変化に伴い、当跡地をさらに有効に活用していくことが求められることから、今後は、新たな産業活性化拠点を構築し、区内の既存産業に対する伴走型支援による再活性化や新しい価値を創出し得る事業者や人材を育成・確保するとともに、区内産業のイノベーションを創出・加速することで、地域経済の持続可能な発展を目指します。
- 区民生活を支えるエッセンシャルな産業であり、区内では大きな位置を占める福祉関連産業について、メディアを活用した魅力の発信に取り組み、産業の魅力を知ってもらい仕事をしたいと思

う契機となるとともに、そこで働く人のプライドを喚起し、働く人の職場定着に繋げることができました。

ありたい姿 5

働く人が活躍できる機会の創出

- 三軒茶屋就労支援センター(三茶おしごとカフェ)を拠点とし、就職のあっせんや相談をはじめとして、ハローワーク等の関係機関や世田谷若者総合支援センターとの連携による求職者のキャリアチェンジを意識したセミナーや面接会等を実施しました。また、「R60-SETAGAYA-」により高齢者が「働く」を軸に地域コミュニティの中で活躍できる機会を創出しました。
- 若年者を中心に正社員での就職を目指す方と、建設業をはじめ区内企業との出会いの場を、あらゆる手法で展開しこれまでに多くのマッチングが生まれています。また新型コロナウイルス感染症禍でのオンライン面接に対応するためオンライン面接ができるスペース「Yell Room」を設置し就活者が安心して就活できる環境整備をしました。
- 従業員エンゲージメント向上に向けた研修プログラムを実施し、働く人が仕事を通じてウェルビーイングに働くことに寄り添い、能力を発揮できるよう取り組んでいます。
- 区内のIT企業と協定を締結し、IT系職種での正社員就職を目指す若者を支援するため、世田谷ITカレッジを開講し、新たなチャレンジに必要な知識や能力、技術を身に付ける取組みを実施しました。
- 個々人のライフスタイルにあった多様な働き方を選択できる社会環境整備のために、企業と連携したテレワークの推進、託児付ワークスペース等の整備に積極的に取り組み、新型コロナウイルス感染症拡大による外出制限の中、活用が進みました。
- 新型コロナウイルス感染症禍で販売が大きく減少した障害者施設で製作される自主生産品の売上向上を目的にスタートした「せせせ」プロジェクトにより、施設で働く多くの人の産業を通じた活躍の契機となりました。

ありたい姿 6

世田谷の魅力が様々な交流を促し、さらなる賑わいを生み出すまち

- 東京2020大会に向け、イベント民泊の活用や観光ボランティアの育成など、国内外観光客の受入と交流の環境整備を進めていましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う1年の延期と無観客開催により、大きな影響を受けました。
- 区外からの来訪者を増加させ、区内消費を喚起することで、経済波及効果を高めることを目的とし、「世田谷まちなか観光交流協会」を中心として効果的な観光プロモーションや戦略的な事業展開を進めてきました。しかしながら、前述のとおり、新型コロナウイルス感染症拡大の外出制限や

外出控えにより、「世田谷まちなか観光メッセ」や観光ボランティアガイドによるまち歩きツアーといった観光事業や観光プロモーションの取組みが一時困難となりました。新型コロナウイルス感染症が下火となったことから、改めて観光事業や観光プロモーションを進めていくことが重要です。

ありがたい姿 7

環境にやさしく、潤いに満ちた生活や事業ができるまち

- みどり環境の維持・向上を目的として、学校教育や福祉事業との連携による農業公園の活用を進めてきました。
- 障害福祉部と連携して、拠点農園の管理を通じて、農地保全と障害者の就労促進・工賃向上を目的とした農福連携事業に取り組んでいます。
2015年度（平成27年度）の都市農業振興基本法成立以降の新たな農地保全に向けた方針のもと、生産緑地地区の指定を緩和するとともに、特定生産緑地への指定や生産緑地地区内での貸借の認定を進めてきました。
- 世田谷区農地保全方針において農地保全重点地区を7地区定め、当該地区内で都市計画公園・緑地として位置付けた生産緑地の買取申出があった場合は区が取得していく等、さらなる都市農地の保全に取り組んでいきます。
- 住まいや建物の省エネルギー化に取り組んできた建設業をはじめ、再生可能エネルギーの普及拡大、LED照明や次世代自動車の普及、水素エネルギー等の次世代エネルギー利活用などに関連する産業の振興に向けて、区内事業者の活用を引き続き行っていきます。
- 産業部門及び福祉部門と連携した消費者啓発活動の促進と、消費者各自のニーズに合わせた消費者教育の推進を進めるとともに、エシカル消費やフェアトレードの普及など、新たな視点に立った啓発活動を組み合わせることにより、適正な消費行動の実現に取り組んできました。SDGs（持続可能な開発目標）の考え方や環境配慮行動、エシカル消費のマインドは、発展条例において、地域経済の持続可能な発展を実現するための非経済的な価値とし重視し、今後も一層の取組みを進めていきます。